觀世流

囃子謡大成

卷

256
221

宗家觀古之記

帝國圖書館藏

雜子

法橋
高野辨明

謠

目次

放下僧　三
花の撥　六
砧潛　八
枕草童　十二
放生川　十四
切蝶　十六
一角仙人　十四
島追　十六
水の川猿　十八
雨月　二十四
拵侍　二十八
雷電　三十一
室君　七
身延　十
飛雲　十三
須磨の浦　十七
松虫　十三
三笑　十五
藤　十七
歌占　二十一
太車　二十六
國栖　二十九

明治
43.10.8
内交

繪馬　四四　現在七面　四六
昭君　四九　仲光　五十
梅　五十二　笛之卷　五十三
木曾　五十五　楠露　五十七
高野物狂　五十八　菊慈童　六十一
花邑　訂正六十三　蟬丸　訂正六十五

淡路

[illegible]まで天より五行の神降りまして、木火
[illegible]金水是なり。所謂陰陽あり別まく
[illegible]深く乃精めるなり。金水の
精なりて生ていけるなり
[illegible]世界をあらざりし先を
いけるなりといひ出ぬ治まり物出生
[illegible]ていけることと
[illegible]淡路の
[illegible]を物めと祭りつゝ[illegible]二柱の
[illegible]神乃おのゝ[illegible]鳴と申す一[illegible]乃
[illegible]
[illegible]

淡路

とりわき紀の国伊勢志摩日向昇よ
細川乃海岸を作り出し日神月神蛭
子そさのをとかや地神五代乃始めよ
り皆此所より出現せり中にも皇孫此日
向乃国に天降りまして地神第四代
を請けて此所に御座有し主有難き代々
とかや　天下をも保ち給ひし事すべて
八十三万六千八百余歳なりき其目出
度王子達よりも代々をゆづりし地乃権現と
現れ給ひしはいざなぎの神
代も只今乃世を去る人ぞ　末神乃代

の道直ぐなる今も妙成秋津洲乃
君は治まりで有難さや　治まりぞと日
かげまさる雲乃上よりあまねく天乃浮
橋の昔へを語りて伝まさへをあぐ
きかせん　そもそも浮橋乃いはへと申すは
は御父の始め乃　二神尊は烏羽玉
乃我黒髪を乱しては結び定めしより
よの手枕乃契れりしまき神たそ
はあるまこまれ淡路山をうきそこまて
天乃逆鉾を振り洗まさうしく丈　定めて
とても神乃世なればくば末はあらん

ありきりといへば虚空よ我神樂乃
月よ映へて光さしは氣色ぞたうとき哉り
きるやきしきぞたうとありきれ
「なるづさ乃うざしよ浮せる白玉乃波も
てゆくは淡路嶋月雲乃若も長閑な
る緑のきもすゑ海るあま乃浮橋ぞ
よよきて八嶋乃國を求めそしいざお
此乃神とは称すく　治まれや國常
立ぞ始めより　「古川乃神の代ぞ
「ほも治へ今よ君乃代より　和光も護
神乃技業乃法國よ風は吹ぞ山も動

努ほ「宮有ぐるきは勢びく拝
天乃浮橋乃其法也前はさるみくもは
成前あるらん「始りほげし弊乃
あるだり露ありて嶋とありし給
淡路よとりんつきし哀ぞ浮橋乃下な
ん「宮流嶋の有様東西は海まんく
としく　「南北よ雲風をほそよ「宮
殿よう浮橋を　「立渡りまよ雲乃
袖ほは見ほこ乃手風あり引はぐ
「風乃時津風治まるは波乃声辰ぞ
宝民もまるよ万歳をうりよ雲乃

声に秋乃秋津洲治まる御世ぞ久し
く

放家僧

乃さは大小乗根機をきらはず持戒破戒
をえらはず有無乃二偏におつる事なく皆
成仏するゆゑあるを　かるが故に草木も
発心乃姿をあらはし柳は緑花は紅なり
ある其色々をあらはすとかや青陽乃春の
頃は谷乃戸出る鶯のこゑあまた流とけ
るあく雪きれぎれてかうたにおひ母ど
うする蛙乃声ぎきぎは心乃ある物を見るに

ぬ秋を風にまかす萩の葉のそよぐ稲葉の田
面にたつ雁鳴きて稲葉の雲井ゆく
時雨妻こひぬるさをしかの声ずむ月
を山にかんで指をわするる思ひあり
庭乃浅の釣舟は塵を乞ふ冬をあれど
ねど見かへるさとき時雨乃あらしや谷
川鐘ゆふべの標朝には背見の界
唯心乃ただ一つ向ひてあるはたぼめどころ
をきかり行くや　月乃ためしにきりしき雲
れ　さてもそろや成ぬらん　面白の
花の都や　筆にかくとも及ばじ東には

祇園きよ水おちくる瀧音羽のあ
らしに地主の桜はちりちり西は法輪
嵯峨の御寺まわらばまわれ水車の臨
せんほりの川なみ川柳は水にもまるる
るふくらすゞめも風になれまねくふ
そゞめく竹よまひるは都のうしろ輝よ
る廓茶屋はひきつれてもまるれ
ぎてあいしづわを祀りておゝきさわへ
放家のゝしもゝでまりてれみ知恩
竹乃節を重てうちかはる代
これ

よし野静

されば彼判官の御道すがら十郎家
とうやまひむかしの人に忠勤を抽でて松乃
意ちとてあし「人は越へし申た神も正直
の頭べに宿る静なれど静が離れ袖に
縛くろめてもして我君を守護しぬと
いづるぞあはれ成るらむ抑景時がうれ
讒言の兄おらさ理へも渡邊や流るゝ
水にみちる塩の淀橋なそそんでうき船の
梶原がまうし事をも順義みでぶれも
じぢまうし義経はそぐに治めし三芳野

の神の懲罰真あらば頼朝をきと
ましくおぼしめす義経執筆の勅とう
きかく陽の西南は是我国と成べしさら
うさ尚山の宗徒ともぐらし上洛し帰
依渇作の御袖に恵をいだき給ふ趣
し官賀を思ふ経が御答あそばす
地 わらし衆徒中に経のさどをう候らし
ふるさとそ於納めも経ちかたもぞ乃名関
ゆるんでと討とめ申ちん門国まほ
熊野の尾ちく思徒まるひきき積あそ
よんで防矢射られ給ふあどかくまいらせ

みる宗徒中よきむ出てこそおかりまれ
シテ 賊や志す 地 あら堅しづ賊乃夢擾攘
そし むかしを今にあはるかとそれ
地 弱くて平の面ろきて時割とらいて
もくまねを行きやとに判官の武勇
よ花まくよし義経を殺らくしやをと
詮議を加へ紙宗徒を計きらまほどよ
ねばら以て主君をいあきたりおらわら
あさらてて尚んあくされらりおもし
申つぎろ志づらて紙成就あく都へそ
ろう悔りき犯

籠太鼓

破れ皷も音をたてゝ「なく鶯の声
揺れ竹「湘浦のうらや娥皇女英「涙
皷若もそひつゞき「ろゝもあやなみ
うや堂「破れ皷も時旧くゞる西山よ
かしらきばなれ乃音も近づくちつ乃皷う
「みよ五つの皷は偽りの契をたがふる妻
理それひさ離まいぽくかう我でんを悲び
結のやもらくうしみよや登い短くうる
みよ四つの皷は世乃中にさく恋ともうすも
恨も事もわきおれなうば独りね
恵をし「九つ乃ゞくおまにもなきうり
やぢ氣ゑ「わが妻恋面影よ立たぞ紀
しや責てぎてがうして去く社は二世
れうひも有べきれは籠出すうほらしぐおう
うれ我籠やばうなりうれは籠

室君

「室の寿ぶよ浮世乃「帰しとゞく夕波
千鳥声そへて友よびかはしあまし女う
うとぞまうる室ぎてれ行舟や声ふうん
あさげまぎのとやらん思ぞ主はあまて
乃うこるまや我を尋ねてで恋し

ぎんよあめつちの海山もかぎりなきやあぢ
さみや浮舟に君気寿をそふる風しみ
あまぎ君の寿をこゝろみきちねを
嬉しきねき人もなき物ぞ何山姫乃
抑さすらん君の山かぜみどりかく
日影もみな梅天地にひらきしもち
ちとせ君の声までゆふかをとうや
然ば末も長うけて杖をつくに若竹や
時雨乃雲氣さりて鹿白妙に梅花
ゑ蓬ゆ路乃空のかゝきもあるや志
ゝし乃君たうて豊年月乃行末

ぞろ毎も君の寿うたひていざや遊
ぶんいろまにしは目出度折節よ
ぞとは神楽を奏でう生佐へ
さらば神楽を奏せうぞるゝ
哀とても室山陰乃神垣の　加茂
乃宮居ハ有難や　月かげ乃ゝく愛
行まして風おさまる世ぞ。ゆぎやい
きやうんじて和光乃垂迹菩提
希ぞ人乃姿を護りたまふ
玉のうんずし猿猴乃袂かく風よりあ
しく福をよせず所ハ宝乃海おまや

山ハのぼりて上求菩提乃さとをもとめ
海をわたりて下化衆生乃おをあら
りよぢよく乃みね雲おもむ須乃大海
とおもひて花嫁の美音くんじて相
好まうして所よめひしかんらは袖をとう
はな勢ぞやりやまき乃あれぞやりは
ぞろ乃旅をよみりてぞくうよあげつ勢
がひきり

指声

去ほどに二乃浦より勢ん今ハ軍もお
うり見ヘ新中納言知盛二位殿よむかう

ひ宮にやうぞてハ是を作御痛りあが
ら行幸を浪乃底よおしまい参らせ一門
供よやまぞしくしう源をおさへて宣へ
むき二位殿へきまうて恐ろて作そてある
げくと立たまひぞ今ハ乃出立とも
しくて白き直衣乃ぞそまたりふ右望
て其れを抱まをもてほうれんを握よ
さし大納言乃つぼ内にて内侍所をとりて
う勢皇居よまいりえぞきまいらさいうそ
うちんやへし此国とおよ遂おほさ
所之へる波乃底よ竜宮とやて

目出度都乃御行幸をおがみ申さんと
おもくそうし給へど けんぞくおそ
れしと思しきこる龍顔にはなみだを
ながさせ給ひて東にむかはせおハ
しまして天照太神にいとま申させ給ひ
其後西方にて浄十念をとなへ給ひ二
位殿あやまちよう玉体をいだき目を塞
ぎて波乃底に入給ふとうけたまはりし
いまはのあと弔ひて給び給へ 又
又経正乃合戦乃もやうまうるぞや 彼
の上より出されし行者ぞ何経正

乃大将軍の王とや慧しのくし上ふ面
下ふ面宰相三位教盛乃郎人を以て
源氏へそをつきあまた追ちらし又能
登殿に志ん乃おちるぞや 教経乃
てうひもじまれば源氏の軍兵
共うなうひて彼能登殿が舟にハ目もかけ
ずただ兵船にぞ急ぎかる平家乃公
達とても入まいらり平家乃公達とも
へに立渡り矢さきを揃切さきをお
しべてよせかうるてき侍りけり
新中にも知盛ぞくぞくも大長刀を

くさあかふさのべたをあかざてはたり
をもとめ多くの歎をあつかればしきる
珍ハ是まで志づまんとてよ給仕二
紀よろづと二ぞ行も其身をおしみなく
あまんとぞうるある沖乃従乃大綱え
いやくとりよそて晩乃上よ従をいる
なさかおと乃上よびろをいできまく
海底にとんでぞ入にきる

身延

妙経や衆罪如霜露恵日の光りに消
え即身成仏なり。彼調達が五逆乃

因にまかせて阿鼻にくるしむ之
終に法僕乃童子に変じ　況受持し讀
誦を心をやめ一時も結縁をはなれて
則仏心なるまじ　帰命妙法蓮華経一部
八巻四七品ことごとく神力に志め
乃べ給ふ濁乱乃衆生あれば経をなも
むづかしくもたもつおは我則
歓喜して諸仏も志かなりと一字乃妙
文なるゆゑ深信堅受不可捨
ぞおもひきもとめ華厳乃御法よりも
般若に及び四十余年未顕真実乃方

[illegible]

便成仏乃まことのうとまさく妙法蓮華
経ぞうと。直捨方便ぞ上れ道ぞよりも
べつぞよ有難や上経よ。達てのかゝをの優
[illegible]
曇花乃花侍そうの時の今れ亂えん
[illegible]

や　すりろや妙なる法の花れ袖
[illegible]
ゆ日やつまさく。[illegible]　報謝れ華
[illegible]
乃ろでのうへよ　紫雲ゝるびきゝ
[illegible]
うちゝ千經よまさく出れ給ゝ妙法
[illegible]
蓮華れへうゝ　ぐて有がゝさ法乃
[illegible]
道ゝ。おゝゝぬゝゝびれ。ぐさ
[illegible]
闇路とてゝ。ぐ乃きぐゝもゝ

[illegible]

とゝ。得脫成仏乃御法ゝうぎて。あ
[illegible]
うがゝや頼ゝや　法乃御恵ゝ時
[illegible]
ゝゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]

づく仙せれ数く樂器をとて[illegible]

[illegible]

さて雲よ来ぬ[illegible]

きぬ[illegible]仙樂を奏せば[illegible]童い立出る

[illegible]

[illegible]

上記 [illegible]

樂 [illegible]

[illegible]

[illegible]百獸をすでよろこ[illegible]

[illegible]

[illegible]

戸鈴くゝ沈まきうくゝ芸恐ろしけを
しけをおぶ夜もまよ夏方の月新く
うき山中よ行べき方もうぐれば
あゝ成きる義の告と牡を無て
後誦まを南無や南山後優婆塞
ぶふ三熊野三所権現力を添くたび
ぶくゝ神ぎや神ぎまを石根よりく
玉雲一村義ゝ谷峯一同よ
響き震動し鹽石をぐぶぶ
嵐よさぶぶ光の中よ
ぶき出る鬼神の姿面ぶむくべき拍ぞ

なさ東方よ降三世明王南方
よ軍吒利夜叉明王西方よ大威徳明
王小方よ金剛夜叉明王中央よ
大日大聖不動明王唵呼嚕呼嚕旋
荼利摩登枳婆婆訶唵阿毘羅吽欠
婆婆訶鬼神乃通力忽よりく明王
乃けぶくみうゝとゝくゝが飛行をお
してあゝとゝくゝとゝれぶ大地よたをまよ
しぶ起つまろびりおの杖と刀を夷若
ぶ乱気よ行出乃威力いよく増り
殊報ぶうくゝと押りんで見我身去義

[illegible]

[illegible]

我說者得大智惠智我牙者即身成佛即身成仏と行ふ勢行者ハ遥ふ立の[illegible]男[illegible]や今迄ハ[illegible]大勢力ハ鬼神と見へしが[illegible]弱ふして唯花鉢と記とてたゞ[illegible]行と見へたゞ[illegible]ハ雲煙有て[illegible]安[illegible]煙と立清く鬼神乃を[illegible]ゞ[illegible]失ふきう

放生川

[illegible]紛[illegible]宗廟ハ神[illegible]代と守り

國家をたもけ武[illegible]乃道ひろく九重にぞ八幡山神[illegible]名ハ川乃[illegible]夫法仏世乃中[illegible]ハ[illegible]道と[illegible]人佛[illegible]乃御心ハ[illegible]正直ハ[illegible]人乃國ハ我[illegible]他の人ハ[illegible]我人と[illegible]御心[illegible]有[illegible]神[illegible]迷[illegible]ひとて[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]行教[illegible]乃御法乃袖ハ陰ハ[illegible]花の都[illegible]と南ハ山ハ[illegible]乃

[illegible]

[illegible]の衣ぎよう[illegible]給つ[illegible]ざ

れば[illegible]や宗廟[illegible]あさ[illegible]かよ[illegible]代のぞ

[illegible]道[illegible]ひ[illegible]國[illegible]民乃[illegible]ど

[illegible]

[illegible]ぞ[illegible]鄙乃[illegible]ぎ[illegible]四海の波[illegible]

[illegible]

[illegible]利益[illegible]法[illegible]二世

[illegible]

樂乃神徳[illegible]

[illegible]男山よ

[illegible]

[illegible]相乃[illegible]

[illegible]

[illegible]神樂[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
代の社あるん和光はりなを年ゆ種さく神
[illegible]
と云たてつる人乃信武氏と申先人ありり
[illegible]
[illegible]社をのく出現くぎ彼さたる放
[illegible]
[illegible]神乃御幸ゆもやむまぢ　こちき
[illegible]
[illegible]びさたをのこね　山下につるる神
[illegible]
[illegible]神はあやん　小忌乃衣の袖をつね
[illegible]
[illegible]早振ありあまををめ　ひさかあ
[illegible]
[illegible]乃うつれ男山　ちやけさうぎ乃所
[illegible]
[illegible]扇さ神代も和奇をちぎく
[illegible]
[illegible]舞をまれきるめでたさよ　中をを
[illegible]
[illegible]れ御衣をりぎるく舞をまれまよ

[illegible]
[illegible]ば四季乃和うをあぎぎを品ふく
[illegible]
舞ふ　春い霞乃わうをあぎく喜
[illegible]
[illegible]楽ゆまりみよ　扇又夏にうてい
[illegible]
[illegible]うの舞をまれ給よ　かく人をを[illegible]
[illegible]
川水ようかぎく[illegible]ちづよ乃ぎ
[illegible]
[illegible]楽ゆ舞ゆよ　ちりめくおきあ
[illegible]
[illegible]風乃ふにれどろくいたげむまれ
[illegible]
乃拍子ぞ　秋ふあと目よいさやた
[illegible]
[illegible]も秋ゆ楽を舞ゆよ　日うぼも
[illegible]
[illegible]雪の夜　くるれきの袖をひる
[illegible]
び　扇百数乃舞ゆ　大宮乃

[illegible]

[illegible]

須広源氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

須磨の海辺をまぢかに音信波の遠音楽よりも
なほ月は夜ごとの月なれども
花ちる白夜乃袖　玉ぬく笛の音響澄
なほ　笠置琴の笠置孤雲のひびき　天
そうたるや須磨のうらなれば海の波風
ぞくぞくとして雲と雨とかうぞうう
ぞたわらぶしてんとうぞうたる影
の中にあらたまる童男あり
須磨の海の波風
なほ　打ぬぎて浦氏のる霊
も余りよき浪乃袖えい和位家狩も
他生と助きんと都辛夫とうぞ二方家たち

まつぶれ　あ〜有難の浦やや有い須磨
乃うらあまぶ　四方に風も吹落く
うす雲のほ　玄のうら　ぬ　ぞく
きりぬんでもぬぶうらうとぼ
えうう有うう山賊ときとい和
ぷ〜ぷ乃きうたれよ　あとよび玄
狩衣たをやうて石きく須磨に嵐よも
ぶ〜ぷ　秋とあと紅海の波風の鈴も
むま屋ぢれおい山ようやあ

〈

胡蝶

[illegible]

ちきび玄蕎秋をへて草木の花よ面
[illegible]
[illegible]
をもしも姫ゆうあきぞも。あもよ縁
[illegible]
あさ子をおぎた姿をとうて法僧よ云
[illegible]
塚をうーちり　面へある法乃ぞち
[illegible]
を塚乃花咲うておを。れむあう傳
[illegible]
へきく唐土乃荘子ぐあぐよう夢の
[illegible]
ぷ蝶乃姿うつ。あさうさ世の中ぞ
[illegible]
ありきあう。定めあさ世といひあぐう
[illegible]
ぐうさうあをうげうさ。光源氏光
[illegible]
古へとぷ蝶乃羅べ色て光ぷ足ぬよ

元一三十ゲニ　ウ　ニ　ゲ　ニ　ウ　ニ　ゲ　ニ　イ
うぐう金銀乃ぷめよさ山姫さ光ぷ
ニ　イ十　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ　ゲ
さのきぬとうを行ぷ花ぞのぷ蝶
ニ　ゲ　ニ　ニ　ニ　ニ　ゲ　ニ　ニ　ニ　ニ
をさへや去さ苔に秋まり出ぷうく足
元又　ニ　ゲ　ニ　ニ　ニ　元　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ
うんとあぐめう。首絡うを夕雲乃月
さ　ニ　ニ　ゲ　ニ　ニ　元　ニ十　ニ　ニ十　ニ
もち入宮のうちぷへめきれあ乃本の
ニ　ニ十　元　ニ　ニ　ニ十　ニ　ニ　元　ゲ　ニ　ニ
ちとよぷ中どう勢さへわぐ姿。義ようあう
ニ十　ニ　ニ　ニ　ウ　ニ　ニ　ニ　ニ　ウ　ニ　元
ぷ。面べしぷ部の立よきへて義乃ご
ニ十　元　ニ　ゲ　ニ十　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ　ニ
くぷよきう義のごうよ面よきう
ニ　ニ　ニ　ニ十　ニ　ニ　ゲ　ニ　ニ　ニ　ニ
あぐ一技の義きり出乃うさたねう
ニ十　ニ　ゲ　ニ　ニ　ニ　ゲ　ニ　ニ　ニ十　ニ
ぐ。れむうあき整うぐ。ぷりれあぐ
ニ　ニ　ゲ　ニ　ニ十　元　ゲ　ニ　ニ　ニ十　ゲ　ニ
うも法乃こぷりうやむ乃下姫よ

[illegible]

衣うつしく水陰ゆく　出端　有難や汲め

[illegible]

世乃をうさよもうまぞ情非情も隔

[illegible]

くあく仏果よりぞ花乃色ぬるさ恨

[illegible]

とうしつ梅花よ為ひまぞはれよま

[illegible]

しうぞお蝶させいちんあうまうう　有

[illegible]

ぬ乃月もてうそもむ乃うくよざもうく

[illegible]

しさお蝶乃姿ぞううまきみいるほう

[illegible]

人う　人というぐうぞ乃ぞうそ歳

上ル

の花乃色隔ぬ梅よ花うもうてル小蝶

[illegible]

もざそうまおまー心あうて八重山吹

[illegible]

もへぐくぬ梅乃花よとびうよお蝶乃舞

[illegible]

[illegible]

ぬ乃月　上音

[illegible]

ぬもうもうぬおまーさうあ　中舞　四季

[illegible]

折と乃花ざうぐく指よ心をうけまく

[illegible]

もうぞうさ宮乃有うう春ぬうう野

[illegible]

も程ちうく野花黄鳥ぞ門をとうや

[illegible]

うしぞ花前よてお舞ぬんくうう雪を

[illegible]

めぐうぞ舞の袖ぬうくも面白や

[illegible]

八舞　上　袖ぞ裏妹の花もぬうくうくおとび

[illegible]

うぞ乃うぞ乃花折おもぞ枝をめぐう

[illegible]

めぐうめぐうやお車乃法よひうまく仏

[illegible]

果よりうぞお蝶ぞうぬのぞうの舞乃

[illegible]

ぞをおもやぞ乃春の乃雲よぞもう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
仙人共決井に足踏車仕出るも
[illegible]
たぐり上る縄の結をかけ[illegible]きまをべ[illegible]人共
[illegible]
[illegible]
[illegible]

立ち波よせうつ岸の浪よりも
移りゆく竜宮の月ぞ

二矢

二國の双乃山流を今迄拝をぬ心にて
愚なりし中に琴詩酒乃友なき
べて物好むをいとやかるん
抑此測明をは彭澤に会とわる宮
にあるを八十余年を経て去るや
日夜酒を愛し松菊を親ぶ菊を東
節のもとにて南山を見るも君に
忠あるゆへとや まず陸備野へ宋れ

明帝の時に仙乃法を学ぶ陸道士
後に南山乃尚寂観に隠居
して世を治めるに人ぞい天下にもなり
ぬるもあるまじ廬山に虎溪に
も劣らぬ光明なり 菊乃考露
つゆ乃ごとく不老乃薬ぞいぶ
ぶもつきず 千萬代もかぎりなれ
ども盃乃四方に夜もゆくぶまで
も白菊の花を着て立ちたもと酒牡
乃羅とやくのもむ よろづ代をル萬
代とく松の久しき例なり 松ちろ

[illegible]

[illegible]年を老松も緑いろ

[illegible]

[illegible]れ姫小松　四番さくらをあげ紫色れ

[illegible]

[illegible]盤ずの松菊を愛[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]て虎渓を遠ま[illegible]給へ御明神様より

[illegible]く禁足へ被[illegible]を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃ぱ心はれや賀茂乃河　と此水よ
歌とうもそ海あれ神とうあと乃
心と程の手向ぐさ　出みくもよそ
よい行とぱそぐぱ　御祓げぱも
緑れ山陰乃賀茂の宮居乃御手
洗河よりう流れく　清きやか
よと狂氣の御身あきべ　みしみも
あるぐどのづうぐぱる　姿いとづう
やぐどねも眉も　乳きぐ　ぱ賀茂の社
へずぐぐぐ　歩ぐうぐ乃　水のあや
服島ぐきぐぐ　倒みてぐ　泣居ぐる

ぎや扱きわうきみ　其妻おとの
ひぬうて　義みる身ぐ　痛しさ
きいそのぐとぐ　ぐとぐ　和おぐ　現お
き身乃心扱だ　ぐそ　も思ひ　保
胸うもさぐぐ　ぐ　ぐ　思
へぐ歌頼む恵　きもうのとよ
立神頃も隅　ぐ　ぐ
賀茂の宮居　宮　神　松や　同ど
名みり　行ぐ　宮ぐ乃　操と　も　た
足　乳の御神乃　恵　と　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　

きぶつをきうく

寺占

生ハ吸ふ息のゆゝ[illegible]百年の齢を
[illegible]ゆき　万ずハ皆空[illegible]行末が常住
乃思ひなるゝ　命を水上ハ泡沫
より随て江めぐりぐるゝ　魂ハ籠
[illegible]中去鳥の開くを待く去よみわ
[illegible]ものハ二度ハ[illegible]ぬ重
て[illegible]須臾より生滅[illegible]新旧よ
[illegible]離散をうらめきなや釈迦大師ハ
[illegible]ちゝ[illegible]乃教を志まゝ[illegible]ハ

魔法王乃呵責の[illegible]
[illegible]分を抜きぬ[illegible]ほくそうハ煙を
[illegible]ハ愛ふろを悩をぬ[illegible]
[illegible]黄泉乃責より随いぞ[illegible]
[illegible]ぬよどをいくぞくれてぞや是
[illegible]追求ハ[illegible]
[illegible]目をみさいぞ[illegible]思べ書友
[illegible]指折て数へをかぞへまべ
[illegible]親族をくうきぬ[illegible]去て
[illegible]ぞうたうんや人ぞ[illegible]
[illegible]ゆを作ら又者の[illegible]　三界

[illegible]
安猶此史宅天仙あるとて死苦乃牙
[illegible]
ありていとや下劣貧賤のほうよおひ
[illegible]
てはやおどろ其罪かろうん死よる
[illegible]
しひろうろ行業よ者しひ狂そ
[illegible]
死ざ受ましい地獄のくるしひきろち
[illegible]
うみて牙ときれる截断して血猥藉
[illegible]
たるぴ日ましろうふ牙死萬生ろう斂
[illegible]
樹地獄乃苦しひ手てほろ死れ樹を
[illegible]
ちどれべ百節まいろんぴ足よ刀山諸
[illegible]
時いをもしゆ苦よきんとろやせ死ろう
[illegible]
地獄苦苦しひ者ぴやうびの大石も

ろくれ罪人をくぐく次の史魚地獄
[illegible]
いろうべふ史実ひいをきべやくきひ乃
[illegible]
骨ろうえんくたる史を出ひ時ハ
[illegible]
焦熱大焦熱乃焔よむをひ時ハ蓮
[illegible]
大紅蓮苦氷よとぢ乃ま鉄杖ろうべ
[illegible]
ひぐぴ死史燥完ろをやく飢てハ
[illegible]
鉄丸をのこ喝してハ銅け汁飲ろや
[illegible]
地獄ひろしひ者量なり鏃鬼苦
[illegible]
苦しひを受過あり畜生倍死の苦
[illegible]
ひも神ろふいうでまちろべき身よろ
[illegible]
出を死科を死ぴの鬼乃牙汁責て

[illegible]
が横よ若代べうゑ世月代乃浮雲
[illegible]
い後の世恋迷ひあるべ　ほの恋れ
[illegible]
雲とべ何と照まそ　胸乃鏡よ心
[illegible]
みぐしおく　恋ろるーや昭今集
[illegible]
アてゆよ恋程いあどやお貴方ぞ恋
[illegible]
ーやあろるーや　ーぎやあ又
[illegible]
組人乃神部ろく面色変アちそう
[illegible]
つわきそみれ　五秋ちわぐら若
[illegible]
めく　白髪が乱まさろがろ　を
[illegible]
ぜちろをめくみく　天よさきび
[illegible]
地よたをきて　かと恋の[illegible]で

[illegible]
くぶーしも卯乃花ぐーの五月雨も
[illegible]
ーやとだろと面よい白千をあぐーて
[illegible]
狭よい露乃恋ぐ五時あ[illegible]
[illegible]
ちれ鬼ぜえいぐろ[illegible]の葉恋や
[illegible]
く指子ぶ者い窓れ面のぶ[illegible]
[illegible]
き立れ居つ肝臓をぐれ神のおと
[illegible]
きろ申上ぐ[illegible]神いあぐーせ
[illegible]
ぬとてぐろくく狂ひちあていぐや
[illegible]
神よろいつきて男よ伊勢路乃吉ろ
[illegible]
よまてもゆうおい二見の浦又も
[illegible]
ぐ二見の御ふ鶏夜よびく伊勢恋

國へぞうりを賜く

雨月

[illegible]
軒端の松よ　吹まるぞや　雨もよく当
[illegible]
あらきうぶ衣のあらし吹落く
[illegible]
ぬく[illegible]ぬ[illegible]乃所うゝ[illegible]月
[illegible]
をもしろ[illegible]をもきけとゝく園乃軒端の
[illegible]
松れ風[illegible]ぬ[illegible]れ[illegible]うゝ[illegible]浪も
[illegible]
ほど色[illegible]俤寝の[illegible]も[illegible]
[illegible]
しとても振枕さゝでも[illegible]
[illegible]
[illegible]いざく[illegible]
[illegible]
[illegible]

しとゝく衣搭ぬれ為ぬさもあらで
[illegible]
秋乃うゝとれちゝよ衣月見ぬてゝ
[illegible]
[illegible]時雨きぬ袖も時雨を
[illegible]
木の葉乃雨の旨位は[illegible]の滴もいと
[illegible]
[illegible]心をゝあて[illegible]乃木葉衣
[illegible]
の袖の上露をもやどす月乃ぎて[illegible]
[illegible]
ねてたつゝをゝぢ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
ちりひぢれ[illegible]木の葉を[illegible]集め
[illegible]
雨乃名殘と思[illegible]　[illegible]や夜もふ
[illegible]
り振袖も御[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]も[illegible]乃[illegible]

[illegible]
衰乃祢ゝうゝ紀貫よかそる古へを松
[illegible]
ゞね花して友よいぢやまどろまじ
ほしテ上ニ
出端
あゝ杖をゝろれ徐吟やお陰陽二河
[illegible]
去道ゆきをゝそ乃句をわゝくゝ
[illegible]
弥ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おまみぐ阿弥陀仏く。歌舞の菩
薩ぎぐ。花のよう般単葉笙乃笛
和琴。拝とよくちりくぐも。父を登べぞ
ありれとだよもーらぶれべよりそれ迄
ぞぢらもハぐちもぢらも捨く
れて皆うもちて狂ぐ

をのれと心よ迷ぐく流精無ぐ
て車れ庭よ出てらぐぐ。正法不定
よりて鳥乃ぢ中にあそぐよとお
ら。悪ぐ紀う邪や神ぐい魔ぐ界よ
生を受とい云おぐら。見仏聞法乃結
縁をとおぐぐ。朱乳樂ぐうもぐ
ぐと思ぐ。考ぐ行ぐう乳弘陀の出れ
よ。般舟聞提をもぐうちず。一会十会
乃間よ般舟聞よもぐうべぐぐを五劫思
惟のお教ぐう。ぐ花びやそ乃ぐ縁
極重悪人無他方便唯稱弘陀乃生極
樂とぐぐ世ぐぐ。洗耳ぐよ仏ぐ神
を。ぐ。ぐ。ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

國栖

そもそもくにす君もこの都より還幸あり
ぞ此魚もあどうしきぢんと 岩き
る水よりあをぐぐ ぞ ゝ ゝ ゝ
川よあ紀ゝ ゝ 野や吉瑞をたゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

[illegible]
くそのうちに[illegible]琴のいとびらき
[illegible]
かのぞれ音楽の神でも来臨し勝
[illegible]
[illegible]八万法山よぶ守乃弥前義王は
王[illegible]や吉野山[illegible]初[illegible]をあら
[illegible]
つくぐそれちすがをを顕し[illegible]
[illegible]
く天をちもてハ胎蔵地をえさ
[illegible]
すハ金剛寶石の上に[illegible]を
[illegible]
[illegible]さげ東西南北十方世界は盧舎
[illegible]
に花行して善天乃下[illegible]出のうちて
[illegible]
[illegible]位をいでかうろんぎもし大勢力の
[illegible]
ちうを出国土をあらゆめ治る弥

代乃天武れ豊代うちさきそうう
[illegible]
たちうきをもをあうれ

雷電

[illegible]
むつまじき親子れちざとあり
[illegible]
[illegible]を三てうと云とかや　中にも志[illegible]
[illegible]
乃ちうぎ乃ちうさ事ハ弥光三世
[illegible]
よ志ちあり　[illegible]や弥れ陸弥
[illegible]
ざいうでうむぎよう幼うう其時を
[illegible]
[illegible]をもく母もなく行方も[illegible]ぬ
[illegible]
[illegible]をぞ管丞公乃養ふ親子乃
[illegible]
契りの間よ[illegible]月れぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]そして給ふ[illegible]の親乃ごとく也撥

勧学院より入僧正[illegible]頼[illegible]風[illegible]

乃宮より[illegible]を招きぼたるとあたる夏

[illegible]

[illegible]

[illegible]筆乃[illegible]やーも枝[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃夜[illegible]の内裏御[illegible]時[illegible]

[illegible]

[illegible]

殿より祈願をなさるべきでんより移し給へば
清涼殿よりたちまち清涼殿よりつ
り給へとあり給ひ梅壺の内より
のおんとを遣はされてあれて我
れをとゝのいつる僧正あり当宮
あれく迷ひくまれいきの所に
とをんかあくおそ給ふとけ有
検うれ千歳阿闍梨をみく給へ
あり乃つかもこの所へ参り海乃
あまりのなをとゝ是あまやゆる
法へ国法秘密れ法味より彩り帝い
天満大自在天神と贈官を宮位相よ
下されきまへ給ひやはれ給ふ
きれ侍ひ是とあるやは是とて
黒雲より打落り虚空にあらせ給
ひきり

繪馬

上古一元文三年
まくらやまくらもあやはとそ頼ま神道
よ繪馬を掛きりや國去きよあるよ
上古一元文三年
賀茂社をあれひあり社日ゝ是を物
足よみをいんぞろくかとの者ぐに
おてうけあるべる物をへうきて侍

[illegible]

くゆくしは楊貴妃のうへの後ありと尾上れ
[illegible]
花は咲そへてやあびくまつをみるきさく
[illegible]
[illegible]とまた地ウ僧正遍昭の哥乃横へそ
[illegible]
れを城もくあるさとへと絵さ手る遊ばれ
[illegible]
海よめでいさづらと心と動もへ歌み
[illegible]
どう志よとうきをてつあぐ弱へ二道うア
[illegible]
て中と恨しへ恋路れ中情あはけへ
[illegible]
手枕 思ふと貴のあるとれて。そ紫
[illegible]
とかもれ恋ふへも行とうつしべき秋
[illegible]
は伊勢れ二様志婦と現で立ふる侍ぞへ
[illegible]
しいぞ疑ひあとうりけれ恋も明

[illegible]
ゆうべ内外みて後てまれえ申さんと
[illegible]
おまよまぎ抜て笑よくうく 雲
[illegible]
へ萬里よ治りて月ようれ明神ゆ恋新
[illegible]
の号宿とてうゆ恋 秋へ翠や秋
[illegible]
津島乃大様梁地神文代れ孫天照太
[illegible]
神れ和光利物みもそそげれ
[illegible]
ときうつる浪れでうゆ恋れ物へ屋
[illegible]
を満ふる五色乃雲とゆ恋ゆ恋ふ日
[illegible]
神れ宿あうぐうや恋和へ秋文乃名
[illegible]
よふうゆ恋神墻志ど紙よ神ゆ
[illegible]
れあうとゆ神躰形き給ゆ恋和や恋も

[illegible]

天の岩戸は閉籠りて、くら闇なる神を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
陽の常闇なるさいつ迄あらしむる
[illegible]
神ぐ聖を歎きていつまも神心ぞくやや
[illegible]
榊枝をあぎくさいよきて多く
[illegible]
榊ぐよりよりより

[illegible]

しかるにその塚はいろくづの塔のうちにて
[illegible]
法華経を達ぐ者なる塚やあれきたる宿
[illegible]
のうきたきまに鬼のもぐくなる
[illegible]
と後しもせのかやうやかるきまの
[illegible]
浮まんずいつの時をか松山や神よ波の浪
[illegible]
[illegible]
[illegible]

年へたる蛇身あり　けらべ懺悔乃其
為なれの姿を見せ給へ　和尚あり給
報恩の為　なれ顕さんと　夕風もも
ぜんと　空や正雲乃行方も早れて無れけり
しかるとき　神の猶光して
き音ふまぎれて　出ふりく　かな
ひとよあつまりもく　唱見法の力ぞ
とんとまた　ひとゆるよ　讃嘆をなし
てまち　祈りく　其ふ　ぎもお今迄
ぬく　ぬくよゆるる　女人と見へければ
ちもゆ　ゆ　妖蛇となつ　月のめく

成眼を　空れ　立人　成る　を　と　新　主　ら　お
く　を　乳　く　と　り　ま　と　び　怨　悔　懺　悔　の
あ　を　影　し　る　応　ん　ら　べ　を　差　上　て　瞻　作
て　こ　て　祈　ら　き　れ　ウ　其　時　上　人　御
法　を　上　ぬ　於　須　臾　頃　後　成　正　覚　と　た
ら　ら　か　ふ　唱　へ　法　べ　急　蛇　身　を　変　じ　た
ぬ　ま　ち　ち　蛇　身　変　じ　つ　ぬ　和　尚　等　を　異　れ
身　と　あ　ま　べ　そ　よ　い　世　雲　た　お　び　さ　西　極
の　れ　ち　ぬ　虚　空　よ　音　楽　ま　き　ら　く　ぬ　ら　称
が　鼓　よ　ま　ど　ふ　あ　ら　。　報　謝　を　奉　乃　狭　し
ま　香　薫　じ　て　吹　送　ら　。　松　の　風　頻　乾　珍

[illegible]
乃ちもとより夜昼月も君と共に
和睦の上にて君をもや　謹上　再
拝　就島の山いろふすこをもて風な
きば　いろての花も世界もそう堂
[illegible]や物理信愛の功力　三界帝滿
乃物行とうきて和光同塵若縁の菩提
顕　玄法示現して蛇山の鎮守と
[illegible]人難水難りろくの難をのぞく
猫則生乃物ぶひとんて君あ[illegible]重て
流生と虎く[illegible]度をんと約諾ろく
つ行滝も白[illegible]ふもちまびきて虚空

[illegible]
みあぐらせ[illegible]ひきう

昭君

[illegible]れば物国の軍こつけて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
下の運を考へ[illegible]と綸言あるを待て
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

仲光

猛き心もよろくとよ頃堂を申き

[illegible]

仲光仕り此嬢さよ御盃や菊の酒。仙家よりいとし子は七歩の孫よ行よ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
もゝをあひまちかゝりし梅乃もと
[illegible]
えをとれよとゝ天皇れ大儀の清
場ゝもゝれもりれ舍人等ゝ梅のも
[illegible]
をえをちゝもつゝさされ蓋のゝか
[illegible]
しらよ仕をれるゝちゝさをもゝ
[illegible]
ゝよしてやうて祇代の清ゝ人ゝ
[illegible]
物書れゝ日乃豊明よい菊乃豊つゝ
[illegible]
きゝひよ梅と柳をたてゝゝちゝて水
[illegible]
紛花い古ゝよゝもてゝやせゝも洗花
[illegible]
と等ゝ人ゝよ見まほゝく打ゝひて作
[illegible]
ゝゝをゝよゝきゝん人毎年れ大嘗よ書ゝ

[illegible]
かゝ小腐の人等ゝ昔乃醫薬れて
[illegible]
ろゝせゝれ花の水を頭巾のゝ中よ
[illegible]
そゝ人豆就散乃天乃日陰の縵垂黒
[illegible]
酒白酒の神酒ゝよゝ人ゝ代萬代もか
[illegible]
きゝゝゝたゝ菊を油とゝつゝて
[illegible]
いさやうあてゝ月もれてゝる猛波
[illegible]
の浦　嘗乃色もれとをゝさゝ雲間よ
[illegible]
梅れ匂ひや天よ波ゝん行めよ満ゝん
[illegible]
天よゝうゝん山たをゝや猛波のゝ
[illegible]
ゝ大豆れゝくゝみよれ稲い芽水位時
[illegible]
折ををたゝ人をゝて花ゝさゝ宮をゝむ

[illegible]

[illegible]人民も出でやたちかよ[illegible]

[illegible]れい[illegible]れい明方れ[illegible]の山れも

[illegible]匂ひそめて震おろ[illegible]明行まよく

[illegible]緑乃空よたるひく白雲に[illegible]浦し世れ

[illegible]天つ弦頃中[illegible]ともく[illegible]さきぬ

[illegible]巌も我君ら代のたち[illegible]へよたち[illegible]

[illegible]岳[illegible]久よ天地乃[illegible]久よ天地乃

[illegible]たよ[illegible]へまさ[illegible]ん目出度ちよ

笛乃巻

[illegible]

[illegible]ようやう親子ともく[illegible]思ひ思ひぬ中

[illegible]ありべ中[illegible]よ安ちぬ[illegible]の為に[illegible]

[illegible]べ[illegible]いろ[illegible]れば高類[illegible]空飛び翔る

[illegible]鳥も其理を知れべとそ[illegible]鳩よ三枝の

[illegible]礼を知[illegible]鳥さえ[illegible]乃孝行あ[illegible]

[illegible]いろ[illegible]かり[illegible]ぞや[illegible]不孝あ[illegible]

[illegible]れば半若も[illegible]手を合を立ちて

[illegible]ゆ[illegible]強へと注居[illegible]

[illegible]いとをあ[illegible]時ちも[illegible]よ離れて

[illegible]むざんやお歌乃手よも流りお[illegible]

[illegible]ある潮川の瀬よも泡みもやきま

[illegible]ぶよ急て思ひ程乃夢れ一時

[illegible]花の夕べ乃山風[illegible]ちく泣くとき

[illegible]
[illegible]波羅の人やもゝ[illegible]くらんもれを
[illegible]
[illegible]やと[illegible]びて[illegible]も今思ひ出の
[illegible]
[illegible]毎乃作の童きれば所あぢ
[illegible]
寺へ[illegible]べ[illegible]ぢう[illegible]ぢう洗笛よ[illegible]
[illegible]
る便のあるぞとぞいふなる謂ひぞ

実理乃不審ぢ[illegible]い弘法大師そて
[illegible]
[illegible]き人乃序笛を[illegible]伝へたる故あれば[illegible]
[illegible]
[illegible]様よ我もいふぞとぞ　そもや大師
[illegible]
乃[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]き事と[illegible]ものを[illegible]伝へ
[illegible]
[illegible]ふいふなる[illegible]ぢ[illegible]いもと入唐乃
[illegible]
商人もて[illegible]笛あるを其出嵯の[illegible]れ

[illegible]ぞとぞ　信を記し[illegible]れ行ぞ[illegible]題
[illegible]
[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ

[illegible]
寺よりなるべし。かまくらにて[illegible]と偽りなる
[illegible]と母いひ[illegible]て常[illegible]
[illegible]
汝はもとより[illegible]いつよりも[illegible]母の伯乃
重[illegible]ぞ。何ぞ寺へ[illegible]
宮ぞかりし名[illegible]ぞ。五条乃橋
より出[illegible]ちまちより[illegible]を[illegible]
てあるぞ。畏く候

是より常ノ福年慶ヨリ前ニテヲ除キ
俗も半若ハ母れ伯乃重[illegible]

木曽

[illegible]
[illegible]服のうちよりもいとよもぎ料紙
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よりて納付してれ。又洲庄の出民軍乃吉
門出を祝し酒さかなをもうく作
かうめでたきことそあれ洲崎の
軍よかきんもうこと恐定あり。ちらべ
軍の門出を祝よべ。光明的よ立ち
出 最てれ八幡の宮れ神風よ敵
又 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
出水乃城をとちらぬだ。いろよ光
明一さ一蔵久 最てれ 敵い水
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
の墓をとちらぬべ 蝶酒宴もそでよ
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
あらべあり。よく。ぎやハ幡の
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
方よりも。山崎翅をあくべつ。分方れ

ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
旗手よ飛うきう納天の走りを現し
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
きれも。水曹殿をとちめ。軍兵ども。皆
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
一同よう。ぢをとちよく。かを獲をとう頼
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
ひとう。扱をて平家乃大勢を。ちうか
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
うう宮よ追落。たる。一戦よ。勝利を
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
得ーもよをよ八幡れ神力あり

楠露

ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
良薬口よ苦く忠言耳よ逆うとい
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
を扱事を怪う強ひ藤房れ卿い出を
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
遁世。今正成ど首途をもういかくさ
ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー
つ始れ やたけれ心ち清く出を

いきめんと思ふあり獅子乃子を生
みて三日を経る時に数子丈の巖より
谷を投くるに其子獅子に氣
力あきべ数へざるに宙より引返り
て死をとゝ云へり況や心行十歳より餘
うぬ云耳に留め乃ち此教御に遺へ
ざれ我付記と雖とそ欲きをそ
めらげく迄も別歌を平らげてせん
運の用きん事を打もよべ たと
ひ逆賊日乃中に羽をけもをお
らとも命のあ量を拾へ等拾を

雪後一日の心節おき跡に清
名を誇をあれ ひさき男に拾
子に加る涙や橘乃露 時しも比
五月雨の降る枝も赤きの雫に
花散りて蓋に義はし
橘幷に名に有て持をぐる 石に
あるそに橘の袋に恨みも行うあまざ
る 鄙人迄も哀しる 恩愛
親子 主従の別きも今更に涙を
袖に満ぐ時動に高く名あ人ぞ清
き名を子代に伝く菊水乃 流

[illegible]

久しさ淩ぎ　衆人の続とあるて

[illegible]

ぞ[illegible]を乃　花橘れ　匂ひぬる[illegible]

く[illegible]く時刻も移る[illegible]

くゆれといさぎよ紀作よ[illegible]

後ぬ涙をひるぐ　其名も清き

河内の國へ帰る孝行尚る忠義乃

[illegible]てきたそ　ぞ[illegible]

高野物狂

[illegible]紀乃国越く名よ[illegible]く

[illegible]や高野の山深みぞ[illegible]

行けば家も乱波の山やらんと云た

[illegible]を思出の昔床姿心よも　狂れ主君恋

しやと　山松恋根ほ道といざや狂

[illegible]ん　いざく狂ひよらん　立ち雲踏の

[illegible]立ち雲踏の家へいづく高野山よ　きて

見れば　たよやお　或へ会仏　林名れ琴

[illegible]或へ見錆鈴の声　耳よそみ心も

[illegible]て　お狂ひの狂ひ　ちむる心や　いろ

うさて　いろうさて　ぞる人を道のべ乃

[illegible]ぞうれ　橋折あるべ　おどろ主君よ

[illegible]と　怨よ行会て　立鉦れ松

[illegible]乃下よ　立寄て　休まんいざ立よう

[illegible]

て休まん

[illegible]

されば末世乃隠所として、結界清浄
[illegible]
の道場たり中にも此三鈷の松ハ大
[illegible]
同二年に唐土より帰朝以前に、善法成就糸
[illegible]
法乃地の名ハ殘り留まりて、三鈷を
[illegible]
なぎさ世ハ[illegible]と共に飛来り
[illegible]
此松乃梢にとどまれる 抑法求れ中
[illegible]
よりきて、松に留まる其さまあ[illegible]代
[illegible]
萬代のまりけて[illegible]れとの唐土
[illegible]
[illegible]く同紀にもれをまたりゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]此年等乃松門を八幡乃[illegible]を

[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]法性随縁の月
[illegible]陰やつれ苔に曇らでとまるとよ
[illegible]
三会の曉をまつ[illegible]く[illegible]扱[illegible]
[illegible]
即身成仏の相を顕わ[illegible]入定の地を示
[illegible]
[illegible]つ深[illegible]る奥乃院深山[illegible]れ
[illegible]
声をみ[illegible]飛花落葉に尚まで[illegible]常
[illegible]
親会をもく[illegible]もとそ[illegible]もまく[illegible]位
[illegible]
の皆会仏道縁覚乃よりをはじめ
[illegible]
然まべ[illegible]と移[illegible]と[illegible]四季折
[illegible]
乃おのづ[illegible]光陰惜むべ[illegible]時人をま
[illegible]
たざ[illegible]遺賢群集の雲霞[illegible]高

[illegible]

野の山ちかくよみ給ふ乃門者乃

[illegible]

[illegible]法の名ゆ音れ心耳よ殘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花筐

[illegible]

漢土のもろこしにはおきと敬き給ふ

[illegible]

おさまりてと神さびく[illegible]

も使よりは男の源氏衣の袂をぬらし

[illegible]

まゝ事美人が紅色の花れようなれ

[illegible]

喜べて出陣し露の床乃うへぞ[illegible]

鏡のかぎをとぢて。終よ帝よ入て

[illegible]

給ひて去たまふや帝みるく。歌

[illegible]

かを詠ひて其はかりもを甘泉殿の

[illegible]

かべようつし神と畫圖よ立うれて

[illegible]
明石の君歌きこえたまふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

さがりぞろへなる花がたをぞ

うあぐらまいらせて 常いろを敷

[illegible] 紙ひもあさ田舎ぶく侍手

よあまり侍花筐ばかりぐくとぞ直

[illegible] 世章乃恨をわきれ程

[illegible]

[illegible]

とぞ宣旨也 [illegible] 方種やはめぐれ直

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花咲都を立出くぶきねよあく

う賀茂川やもを白河をうちわたり

紫田口よりもゆしろ今は雅とろ松坂

や。朝乃てゆと思ふ。仏よあるや

音羽山乃名所行の都や。松出もく

出きりぐすの鳴やゆ陰乃山科

の里べもとゞ愛をあり。粒女あれど心当

清瀧河と名べし　逢坂の関の清水

よ影みてとやひく笠ともり月れ駒の

あゆともをづく。水もうと井のか

ぎそれ。科おうう清ぎ。髪ハとど

ろと鶯き伏里もそぐれ名ろそ笑ち

ぐそ乃歌うつ。水をかゞみとゆ浪

乃うつおの科姿や

256
221

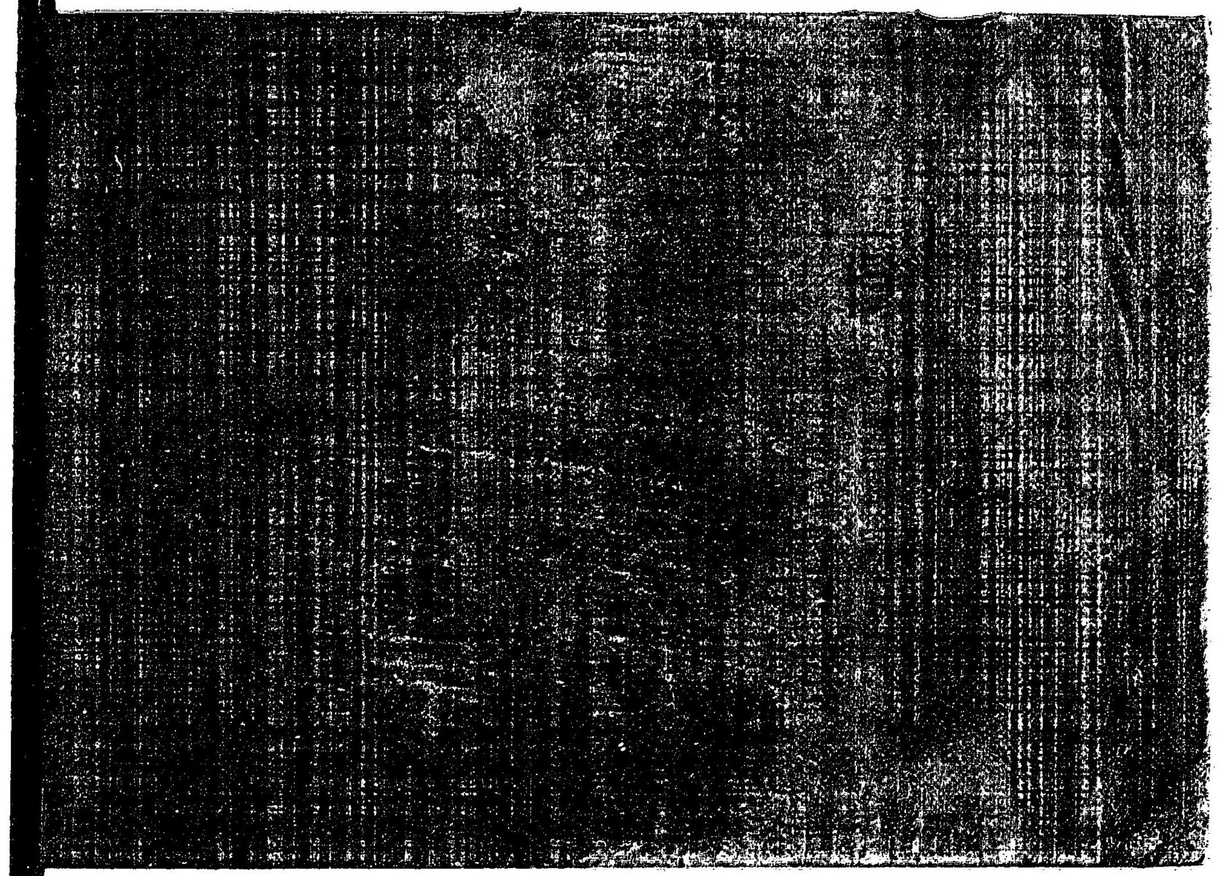
（雛子謠冬奥附）

明治四十三年十月一日印刷
明治四十三年十月五日發行

東京牛込區新小川町二丁目拾番地
訂正者　觀世清孫
（電話番町三百拾六番）

京都市上京區三條通麩屋町東北角
發行兼印刷者　檜常之助
（電話特二千百九十番）
（振替貯金大阪三六一八番）

特約店

東京市淺草區新福富町十一番地
檜印刷部
印刷所　青木常次郎

複製不許